

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 国際交流協会 ともだち in 名取

1 事業の趣旨・目的

配偶者や親としての立場で多忙な外国出身者や学習機会の少ない就労外国出身の日本語学習希望者に対して、その習得度に応じた効率的な学習機会を提供する。一方でこれまで講師各人の多大な負担のもと運営維持されてきた講座運営の現状を鑑み、その負担軽減を図っていく。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2011年 7月6日 13:00~	サッポロビール仙台工場	氏家洋子、 山田洋司、 中島諦、板 橋和子、相 澤喜美、若 山陽子	・採択経過、内容報告について ・講座の目的、運営方針について ・各委員より提言	・事業の採択通知を受け、今年度の日本語講座運営の基本的な方針と具体的方策についての確認 ・多文化共生社会実現への方向性意見交換
2011年 11月16日 13:00~	サッポロビール仙台工場	氏家洋子、 山田司郎、 中島諦、板 橋和子、相 澤喜美、若 山陽子	・講座の運営状況について ・今後の講座運営について ・各委員より提言	・講座開始以降の会場確保難の現状、受講者への対応状況を報告 ・夜の部についての今後について検討 ・講座の具体的内容について意見交換
2012年 1月26日 13:00~	サッポロビール仙台工場	氏家洋子、 山田司郎、 中島諦、板 橋和子、相 澤喜美、若 山陽子	講座の運営状況について ・今後の講座運営について ・各委員より提言	・これまでの講座運営内容について特徴的な内容について報告 ・次年度事業についても継続の方向で準備に入ることを確認 ・活動拠点の早期再建に向け、行政への要望検討

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 講座名 学習者の習得度、学習環境に対応した日本語講座
- ② 開催場所 (6～7月) 名取市手倉田字八幡 310-1
サッポロビール(株)仙台工場内 ゲストホール
(8～11月)名取市増田 2-6-52 太田英子様宅(移転跡個人宅)
(11～3月)名取市増田 2-6-34 JA 名取岩沼増田支店 2階会議室
- ③ 学習目標 学習者の習得度や個人目標に応じた効率的な日本語能力向上を目指す。
日常生活習慣への理解と対応能力の向上をはかる。
生活に直結した資格取得のための日本語能力向上
- ④ 使用した教材・リソース
みんなの日本語、新聞記事、広告チラシ
- ⑤ 受講者の募集方法
ホームページへの掲載、案内チラシの配布、市役所市民課、公民館他公共施設への配置
- ⑥ 受講者の総数 25 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳)
中国 11人、韓国 5人、タイ 4人 ブラジル 2人、ザンビア 3人
- ⑦ 開催時間数(回数) 66 時間 (全 33 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

使用テキストは「みんなの日本語 スリーエーネットワーク」を基本にしています。

「内容」の、初級、中級などはみんなの日本語教本の種類です。

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	6月 6日 10:00~12:00	2時間	6人	中国・中国語 2人、 韓国・ハングル 4人	教授者 4人 補助者 2人	震災後初回 現況確認
②	6月 13日 10:00~12:00	2時間	7人	ブラジル・ポルトガル 語 2人、韓国・ハング ル 2人、ザンビア・英 語 3人	教授者 2人 補助者 2人	新入会者を迎 えて自己紹介 進度確認試験
③	6月 20日 10:00~12:00 (NHKの取 材入る)	2時間	12人	ブラジル・ポルトガル 語 2人、中国・中国語 2人 韓国・ハングル 5 人、ザンビア・英語 3 人	教授者 3人 補助者 3人	新入会 3人の面 談、進度試験、 初級、中級
④	6月 27日 10:00~12:00	2時間	6人	ブラジル・ポルトガル 語 1人、中国・中国語 2人、韓国・ハングル 3 人	教授者 4人 補助者 3人	初級 I、II 中級 I 能力試験 N 1
⑤	7月 4日 10:00~12:00	2時間	12人	韓国・ハングル 6人 中国・中国語 3人、ザ ンビア・英語 3人	教授者 4人 補助者 4人	見学者対応 初級 I、中級 I 漢字 I
⑥	7月 11日 10:00~12:00	2時間	10人	韓国・ハングル 3人、 中国・中国語 2人、ブ ラジル・ポルトガル語 2人、ザンビア・英語 3 人	教授者 4人 補助者 4人	初級 I 中級 1 漢字 I、N 1 会話練習
⑦	7月 25日 10:00~12:00	2時間	7人	中国・中国語 2人 韓国・ハングル 2人 ブラジル・ポルトガル 語 1人、ザンビア・英 語 2人、	教授者 4人 補助者 3人	初級 I N 1, 2 新聞の社説

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
⑧	8月1日 10:00~12:00	2時間	11人	中国・中国語8人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語1人、	教授者4人 補助者4人	新入会の面談、進捗試験 初級I、中級I、N2、漢字I
⑨	8月8日 10:00~12:00	2時間	9人	中国・中国語6人 韓国・ハングル3人	教授者4人 補助者4人	初級I、中級I N2文字語彙
⑩	8月29日 10:00~12:00	2時間	11人	中国・中国語6人 韓国・ハングル4人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	新入会の面談、 進捗試験 中級I、N2 聴解、N1語彙
⑪	9月5日 10:00~12:00	2時間	9人	中国・中国語5人 韓国・ハングル3人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	初級I、中級I N3、N2語彙
⑫	9月12日 10:00~12:00	2時間	10人	中国・中国語5人 韓国・ハングル4人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	初級I、中級I N2語彙
⑬	9月26日 10:00~12:00	2時間	15人	中国・中国語9人 韓国・ハングル4人 ブラジル・ポルトガル語2人	教授者4人 補助者4人	初級I、II中級I、N2読解 新聞記事、N1
⑭	10月3日 10:00~12:00	2時間	12人	中国・中国語8人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語2人	教授者4人 補助者4人	初級I、中級I 漢字I、新聞記事読解、N2
⑮	10月17日	2時間	11人	中国・中国語9人 ブラジル・ポルトガル語2人	教授者4人 補助者4人	初級I、漢字I 中級I、N1 新聞記事

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
⑯	10月24日 10:00～12:00	2時間	13人	中国・中国語10人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、中級Ⅰ、N1, 2 新聞社説読解
⑰	10月31日 10:00～12:00	2時間	13人	中国・中国語9人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語2人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ, Ⅱ 中級Ⅰ N1, 2 新聞社説
⑱	11月7日 10:00～12:00	2時間	15人	中国・中国語9人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語2人、タイ・タイ語2人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、漢字Ⅰ 中級Ⅰ N1, 2
⑲	11月14日 10:00～12:00	2時間	11人	中国・中国語8人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、中級Ⅰ 料理の本、N2
⑳	11月21日 10:00～12:00	2時間	11人	中国・中国語8人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ, Ⅱ 中級Ⅰ N1, 2 模試、新聞社説
㉑	11月28日 10:00～12:00	2時間	10人	中国・中国語7人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、Ⅱ 中級Ⅰ N2, 1試験対策
㉒	12月5日 10:00～12:00 (文化庁視察)	2時間	12人	中国・中国語9人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、日記をつける N2総括と今後の方針相談 N1読解「走れメロス」

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
㉓	12月12日 12:00～12:00	2時間	7人	中国・中国語7人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、クリスマス、年賀状の文化について
㉔	12月19日 10:00～12:00	2時間	9人	中国・中国語8人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者3人 補助者4人	初級Ⅰ、中級Ⅰ、N1「走れメロス」、日記の書き方 クリスマス会
㉕	1月16日 10:00～12:00	2時間	12人	中国・中国語6人 韓国・ハングル2人 タイ・タイ語4人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、N1 日記の書き方、会話、 新年会
㉖	1月23日 10:00～12:00	2時間	10人	中国・中国語7人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、Ⅱ N1漢字、「走れメロス」電話のかけ方、中国のお正月
㉗	1月30日 10:00～12:00	2時間	9人	中国・中国語6人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、Ⅱ 中級Ⅰ N1模擬問題 「走れメロス」
㉘	2月6日 10:00～12:00	2時間	9人	中国・中国語6人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、中級Ⅰ N1語彙・読解
㉙	2月13日 10:00～12:00	2時間	6人	中国・中国語5人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者4人 補助者3人	初級Ⅰ、Ⅱ N1新聞社説
㉚	2月20日 10:00～12:00	2時間	12人	中国・中国語5人 韓国・ハングル2人 ブラジル・ポルトガル語1人、タイ・タイ語4人	教授者4人 補助者4人	初級Ⅰ、N1 助産師による 「衛生用品の扱い方講座」

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
③①	2月27日 10:00~12:00	2時間	6人	中国・中国語4人 韓国・ハングル2人	教授者4人 補助者3人	初級I 新聞社説
③②	3月5日 10:00~12:00	2時間	9人	中国・中国語8人 ブラジル・ポルトガル語1人	教授者3人 補助者4人	初級I、II N1・会話
③③	3月12日 10:00~12:00	2時間	11人	中国・中国語8人 ブラジル・ポルトガル語1人 韓国・ハングル2人	教授者4人 補助者4人	初級I、II N1新聞社説 閉講式・学習者 全員スピーチ

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

習得度に応じた効率的な学習機会の提供という観点から、少人数でのグループ学習や可能な範囲でのマンツーマン指導体系に重点をおいた授業運営をおこなった。

地域生活者の日常的ニーズに対応する内容として、学習者の希望に応じて新聞広告チラシや新聞記事、社説等を活用した授業機会を増やした。

乳幼児のいる母親でも安心して学習に参加できるよう、託児サービスも実施した。

拠点としていた市の関連施設が震災により使用不可となり、開催会場は個人宅(震災被害による改築のため移転した跡)を含め3回移転した。



個人宅を会場とした教室の様子



JA 会議室での教室開催



託児の様子

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

地域に生活する生活者の日本語習得のニーズは個別的であるが、一方では共通した問題点や課題および学習の必要性を抱えているのが実態とみられる。それらは本人が自覚している場合もあるが、指導者側で指摘する必要がある場合もある。生活者としての日本滞在年数、家族構成、出身国で受けた教育・学習経験、個人的能力等によってその様相を異にするので、学習開始当初面接や簡易テスト等により日本語習得のニーズや学習経験や実力を把握して、学習指導の方向性を決めていくことにした。

学習者は全員が地域における生活者である。特徴としては「聞く」「話す」の領域は他の「読む」「書く」の領域に比べると進歩は顕著であるが、4 領域間の格差にはかなり大きなものがある。そのために特に「読む」「書く」二つの領域に重点を置いて指導することにした。子どもが就学年齢に達した場合この分野の習得に特に熱心さがみられた。

学習者と指導者は、常時学習に参加する場合は、マンツーマンで行われるので互いの特質が相互に理解でき、指導もしやすいので、指導効果も上がり、この領域の進歩が確実にみられた。

震災により、学習環境もその拠点を失い、教室も二転、三転した。出身国に一時帰国した学習者もいたが、概ね学習者は意欲的に、緊張感を持って学習に参加した。特に近い将来就労の意志や希望を持つ学習者は、日本語能力試験受験の志望を持ち、熱心に学習に参加した。今年度はN1合格1名(受験者1名 ブラジル)、NII合格1名(受験者1名 韓国)の成果がみられた。

② 学習者の習得状況

ア 初級者クラス:このクラスで年度当初カタカナ、ひらがなが全く読み書きできなかった学習者はいなかった。家庭で自学自習ができず、習得の進歩が遅いのに気づいて学習の機会を新たに見つけようとして、支援教室に参加するようになったケースが多い。習得の支援団体の存在は、同国出身者から情報を得る場合が多い。教室では出来るだけ日本語で会話するよう呼びかけられているが、このクラスの段階では、同国人同士互いに母国語で会話する場面が散見された。こ

のため、当会の別グループが運営する年間の国際交流イベントに積極的に参加するように呼びかけ、実際の生活体験場面でのコミュニケーションを体験させた。支援の指導者も会話の機会を多く持って接したので、当初みられた会話場面で臆することは徐々に少なくなった。

滞日年数の長い学習者の中にはイベントで、出身国の料理作りの講習会の講師を務めるほど日本語の会話能力を身に付けた者もいる。「読む」「書く」の領域にも必死に取り組んでいる。

学習の意欲や理解力を高めるために、講師はテキスト(主要テキストは「みんなの日本語」)の他に自主教材として、イラスト、地図、電子辞書、プリント等を準備して習得を支援した。

漢字の習得には時間と意欲が必要であるが、家庭の主婦が大部分なので、家庭内での学習時間の確保ができない場合が多い。教室で集中的に学習に取り組むことを大事にさせた。

さらに、「書く」領域では、短文で日記を書く指導も取り入れた。震災により帰国した学習者や一時帰国者を除く学習者の支援教室参加率は90%程と高かった。

イ 中級クラス:このクラスでは、日常生活での「話す」「聞く」はほぼ困らない程度になっている。さらに目指すのは、家庭内の日常会話の世界から、一段上の社会生活参加レベルへの向上を目指す。このクラスでは国際交流の機会に仕事の役割を持って参加するよう促すことによって、体験の幅を広げることができた。

「読む」領域では、テキストの他に、やや長い文章の読解に取り組ませた。読解の練習問題にも挑戦させた。日本の新聞を読む機会も設け、社会生活や日本語習得場面で、初級レベルの領域の広がりや自覚できるようにした。長文の読解には当然未だしの感はあるものの、学習内容と方法の理解についての進歩がみられた。

ウ 日本語能力試験対策クラス:受験機会が年間2回になってから、受験志望者は毎年おり、今後とも継続の可能性が高い。生活者が就労可能な資格の一つと考えたり、現在の日本語能力の実力把握にと考えたりして受験している。

このクラスの学習者は4領域のレベルは次第に平均化に近づいている。漢字、語彙、文法等学習領域は上級ほど広がるが、志望者は大変意欲的に受験準備に励んでいる。今年度は受験者全員が合格している。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果等

生活者はまず生活に必要な日本語習得の必要に迫られる。しかし、多くは日本人の夫を持つ生活者の場合、夫からは当面最低必要な範囲の日本語しか学ぶことができない場合が多い。しかもその場合の使用言語は地方語・方言が多く、標準語をしっかりと学習することは容易ではない。

さらに、生活者は家庭内の行動が多く、近隣以外の日本人と接触する機会も少なく、行動範囲は狭く、得られる情報も比較的少ない。

このような事情を持つ外国人の日本語習得支援を始めて5年になるが、日本語の習得の機会が得やすいように、当会では託児サービス(共生支援部担当)を設け、学習者が受講しやすいよう配慮している。また、「餃子づくり」や「クリスマスパーティ」等の年間に国際交流の行事を数度計画(多文化交流部担当)し、日本人との交流の他に同国出身者との交歓ができるよ

うにもしている。当会での学習者は交流する経験を積み重ねていくにつれて、次第に出身国を超えてどの国の出身者とも交流できるようになってきている。5月には、名取市と宮城県国際交流協会主催の県民フォーラムにタイ、ブラジル、中国出身者がそれぞれ代表参加し、日本語で堂々と見解を述べるに至っている。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果等

例年の行事の中では、地域の人との出会いと交流の機会となる、春の田植えと秋の刈り取りが最も外国出身者に喜ばれる。しかし、今年度は震災により田圃が失われその機会はなくなったが、思わぬところで地域との連携の機会が新たに生まれた。

震災後仮設住宅が市内に複数設けられ、多くの市民がそこで居住することになった。当会では、所属会員は学習者も支援者も年間同一会費を拠出して会の運営と維持に務めている。年間の行事には所属する部や出身国の枠を超えて参加し、交流することを申し合わせている。

震災で新たに生じた被災市民への支援と交流は格好の交流の場となり、多くの学習者がこれに参加している。仮設住宅でのお茶の会(「お茶っこのみ」)開催、支援物資の配布、出身国の得意料理の提供等に参加することで、学習者は日本の社会生活、風俗習慣、ものの考え方、行動パターンに直接接することで、日本での生活に役立つ多くのことを学び、生きたコミュニケーションの機会を得ることができた。

⑤ 改善点、今後の課題について

A 現状

震災により、それまで当会の事務局もあり、支援活動の拠点でもあった市の関連施設が使用不能となり、日本語習得支援の教室も、今年度3回移転する結果となった。それぞれが、以前に比較すると狭隘で託児サービス事業とも同一の場所で実施していたので、学習環境としては万全ではなかった。

B 今後の課題

支援活動の拠点再建を待つ支援活動の拡充を図りたい。市内在住の外国人登録者は約280名であるが、多くは日本語習得の機会を持たない。震災により、行政の対応も行き届かない面が多い。支援者の増員と学習者の増加の具体的な計画を立案していきたい。

C 今後の活動予定、展望

震災のダメージの回復と合わせて、日本語講座部は他の多文化交流部、共生支援部との連携、さらには行政サイドと協働する機会を多く持ち、市内在住の外国人への支援の輪を広げていきたい。

滞日年数の長い学習者には、日本人の夫との間に生まれた子どもがすでに小学生中学年になっていたり、新年度には幼稚園に通う子どもがいたりする。日本での生活が長くなるにつれて、新たな体験や予測できないことに出会う機会も多くなっていくので、出来るだけ多方面の相談・支援に役立つ体制も整備していきたい。これらの子どもたちの日本語の習得は現在学校の教育指導が唯一となっているのが現状である。親の中には、子どもの母国語習得との関連に悩んでいるケースがみられるので課題としていきたい。

⑥ その他参考資料

ア 入会時のプレテスト